

# 日本はどこへ

## —世界の中の日米中関係—

期 日:2010年10月23日(土)~24日(日)

場 所:八王子セミナーハウス(東京都八王子市下柚木1987-1)

—昨年在北京オリンピックに続き、今年は上海で万博が開催されています。中国の経済は急速に成長し、先進諸国にとって魅力ある市場となっています。同時に、その政治的スタンスは日本やアメリカにとっても今後のアジアの国際関係を考える上で重要な要素です。今回はこうした中国の動静とそれをめぐる日米中三国関係を中心に考えてみたいと思います。同時に、その背景となる今日の国際社会の枠組み、日米中関係に強く影響される東南アジア諸国の今後についてもあわせて考えてみたいと思います。

(国際学生セミナー企画委員長・渡邊啓貴)

### 基調講演

## 北岡 伸一

東京大学大学院法学政治学研究科教授

今後の日本にとって最大の問題は、中国の急速な勃興にどう対処するかということである。それは、日本のみならず世界全体にとっても最大の問題の少なくとも一つである。この問題を考えるために、(1)世界の構造はどのように変わりつつあるのか、(2)中国はどのような発展を今後続けるのか、(3)アメリカは将来どのようになるのか、(4)その中で日本が取るべき政策は何か、という順序で考察を進めていきたい。

### セクション演習

#### A 中国外交と米国・日本

青山学院大学教授 高木誠一郎

#### B アメリカ外交と日本・中国

立教大学教授 佐々木卓也

#### C 日本外交と中国・アメリカ

法政大学教授 河野 康子

#### D 東南アジアからみた三国関係

慶應義塾大学教授 山本 信人

#### E 世界から見た三国関係

早稲田大学教授 太田 宏

### プログラム概要

第1日 10月23日(土)

13:10~14:40 基調講演

15:00~17:30 共通セッション(セクション演習)

19:30~21:30 セクション演習1(分科会討論)

第2日 10月24日(日)

9:30~11:30 セクション演習2(分科会討論)

13:00~15:00 総括討論

## A 中国外交と米国・日本

青山学院大学国際政治経済学部教授 高木 誠一郎

胡錦涛政権はその対外政策の中で大国との関係を「キーポイント」、周辺諸国との関係を「最も重要」と位置づけている。大国の中でも、冷戦終焉後「唯一の超大国」となった米国は、最近その影響力の相対的低下が見られるとは言え、「キーポイント」としての重要性は依然として突出している。他方、周辺に位置する大国である日本の重要性も極めて高い。もちろん、中国には単に両国との協調関係だけを追求することができない様々な理由があり、協調と紛争・対抗のバランスこそがその外交の中心的課題である。しかも、中国にはこの両国との関係を別個のものではなく、関連づけて考える「戦略思考」がある。本セクションでは、中国の対米、対日政策の展開を相互の関連にも留意しつつ歴史的に概観したうえで、現状を把握し、将来展望への足がかりを得るよう努めたい。

## B アメリカ外交と日本・中国

立教大学法学部教授 佐々木 卓也

アメリカがアジア・太平洋に対する本格的な関与を始めて、ほぼ一世紀がたった。とくに1945年以降は二国間の安保条約をもとにソ連、中国に対抗し、71年以降は米中接近を経て、日本、そして中国と協力してソ連に対峙した。冷戦終結後は日本とは安保を軸に、中国とは経済を軸に関係を強化した。しかし中国の一層の台頭、日本の経済的低下はこの地域の国際環境を大きく変えているようである。本セクションでは、アメリカの対日・中政策を歴史的に概観した後、G・W・ブッシュ政権、そしてオバマ政権の政策を検討し、このテーマについて一定の展望を得たい。

## C 日本外交と中国・アメリカ

法政大学法学部教授 河野 康子

日本外交からみた中国とアメリカを考える際に、今後最も重要となる課題の一つは、国際社会に対する日本の貢献をどのように行うか、ということではないだろうか。その場合、日本の貢献は中国・アメリカとの協力を含む多様な分野にわたるものになろう。例えば、民主主義と法の支配、環境問題、貧困への取組み、非核政策などが考えられる。それらの分野を改めて検討しつつ、日本にとって可能な国際貢献のあり方を日米中関係の視点から考えてみたい。

## D 東南アジアからみた三国関係

慶應義塾大学法学部教授 山本 信人

21世紀にはいり東南アジアは、日米中の緊張関係をよそに、3国との良好な外交関係を維持している。それは20世紀後半に米主導で構築された地域秩序の変容を意味する。現実には東南アジア諸国連合(ASEAN)主体の地域秩序化が進展する一方で、域外3国との関係は深化している。では、東南アジアはどこへ向かおうとしているのか、東南アジアが変わると3国関係にいかなる影響をおよぼすのか。

## E 世界から見た三国関係

早稲田大学国際学術院教授 太田 宏

日本・中国・アメリカの建設的かつ協力的な関係は、地域あるいは国際社会の安全保障問題(北朝鮮問題や核拡散防止体制の維持強化等)、世界経済の安定化(自由貿易体制の維持や国際金融制度の安定化)さらには地域や地球規模の環境問題(地域の環境汚染や気候変動問題等の改善)にとって非常に重要である。したがって、主要な国際問題に対する3国の対応ならびに協力関係に注目することは、現代世界政治状況を分析するためのみならず、今後の世界状況を展望する上でも不可欠な視点である。

### 【募集要項】

- 募集人員：50名  
 参加資格：日本人大学生、院生、留学生  
 参加費：8,000円(宿泊・食事代、税を含む)  
 会員校学生は6,900円、留学生には、富士ゼロックス(株)小林節太郎記念基金からの助成金を充当し、3,000円とします。  
 申込方法：ホームページ(www.seminarhouse.or.jp)掲載の申込メールフォームに必要な事項をご記入の上お申込み下さい。折り返し参加決定通知及び交通案内などをお送り致します。連絡のない場合は電話でご確認下さい。  
 申込締切：定員になり次第、締切ります。  
 お問い合わせ先：大学セミナーハウス企画広報課  
 〒192-0372 東京都八王子市下柚木1987-1  
 TEL：042-676-8532(直通)・8511(代表) FAX：042-676-1220  
 E-mail：g-sun@seminarhouse.or.jp  
 ◆詳細はホームページ(http://www.seminarhouse.or.jp/)をご覧ください。



■このセミナーは、八王子学園都市大学(いちよう塾)にプログラムの一部を提供しています。八王子学園都市大学(いちよう塾)とは、「だれでもいつでも多様に学び豊かな文化を育むまち」を実現するため、八王子市と八王子地域23大学・短期大学・高等専門学校、企業及び市民の方との協働により、市民の皆さんが意欲をもって学ぶことのできる機会の場の提供を目的として開学した、市民のための市民大学です。

### 【国際学生セミナー企画委員】

#### 渡邊啓貴(委員長)

- 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授  
**絵所 秀紀** 法政大学経済学部教授  
**太田 宏** 早稲田大学国際学術院教授  
**佐々木卓也** 立教大学法学部教授  
**園田 茂人** 東京大学大学院情報学環教授  
**山本 信人** 慶應義塾大学法学部教授  
**中兼和津次** 東京大学名誉教授

大学セミナーハウス本館は、逆キャラミットの形で「大地に知のくさび」という建設当時の理念の象徴です。日本建築分野でよく知られている建物です。本館の壁には大きな人間のような目が施されていますが、ご存知の方意外と少ない。



こちらに来てこの「珍百景」を探してみませんか。